

生物

「軽井沢における野鳥調査」

長野県岩村田高校 生物班

2年 岡美佑 土屋瑠七 田澤花菜 松本夏葵

1年 中島吉貴

1. 研究動機及び目的

長野県の東側に位置し、平均標高が1000mを超える軽井沢町は寒冷な気温から避暑地としても知られている。私たちが軽井沢町及び近郊で暮らす中でよく目にする野鳥について、長野県でも特に寒冷な

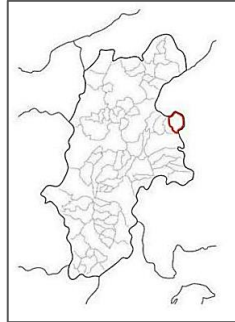


図1 長野県地図

軽井沢町ではどのような種が見られるのか興味をわき、調査研究を進めることにした。

本研究では過去の観察結果をもとに、現在の軽井沢町でみられる野鳥の分布及び、その変化を調査する。

2. 仮説

過去と比較して、現在では、人口増加に伴う家屋の増加などにより軽井沢町の環境は変化しており、そこで見られる野鳥の種類は、過去と現在で少し異なっていると考えられる。

また、軽井沢町の気候は冷涼であるため冬鳥が次の滞在場所に渡る時期が遅くなることで滞在期間が他の地域と比べて長くなると考えられる。

以上、2つの仮説を検証する。

3. 実験と分析方法

季節ごとの野鳥の変化と分布を明らかにするために野鳥観察を行った。また、過去と現在での野鳥の変化を明らかにするために、過去6年間の野鳥のデータを参照し、野鳥の出

現状況を分類群ごとにまとめた。

野鳥観察においては

- ① 軽井沢野鳥の森を中心に、軽井沢町内でみられる野鳥を観察し、鳴き声の録音、写真撮影、観察した場所の記録を行う。時期ごとに、観察された野鳥を科ごとに「野鳥の森」のマップ上にプロットし、下の図2のような図を作成した。
- ② 記録した鳴き声や写真をもとに、図鑑やインターネットを活用し、種同定を行い、その野鳥の分類、観察場所、季節、体長、鳴き声を表にまとめる。



図2 軽井沢野鳥の森でみつけた鳥の科と位置 (NPO法人「ピッキオ」HPより改変引用)

データ処理においては

- ① 季節ごとの野鳥の種類の変化と、ピッキオ軽井沢さんの過去のブログをもとに作成した表を参照し、過去と現在の野鳥の生息の変化を調べ、Excelの表にまとめる。表においては、調査を行った時に見られた種に「○」で印をつける。

4. 結果と考察

本調査では、観察された野鳥が特に多いのは春と夏であり、ともに15種（内訳は異なる）が確認された。この温かい時期に野鳥が多いのは、エサとなる昆虫などが多くいるためだと考える。その中でも特にヒタキ科の鳥は、春から夏にかけて日本でみられる種が多い。逆に、ホオジロ科は、秋から冬にかけて多くの種がみられた。また、種に関わらず、図2で見られるよ

うに、どの季節においても川沿いで多く観察された。

ピッキオ軽井沢公式サイトに掲載されていた過去6年間の野鳥データによると、2018年4月から2023年10月までの期間で、25科44属60種の野鳥が観察された。また、ゴジュウカラ科とシジュウカラ科の野鳥が季節にかかわらず、毎月みられることが分かった。カラス科のハシブトガラスとハシボソガラスを比較すると、軽井沢町では、ハシブトガラスの方がより多く観察された。その理由としては、ハシボソガラスは農耕地や河川敷などの開けた場所を好むのに対し、ハシブトガラスは森林やビル街などの立体構造を好むことが知られている。そのため、樹木が多く見られる軽井沢町ではハシブトガラスが多く生息しているものと考えられる。

ハシボソガラスとハシブトガラスの生息状況. 野鳥類学論文集(16), 47-54, 1998

5. 反省と課題

今回は季節ごとに観察を行ったが、精度を上げるため、月1回の観察を行い、より正確で説得力のある研究にしていきたい。

ほかにも生息域が変化している野鳥や観察回数の減少している野鳥の生態と原因について調査していきたい。経時的な変化を捉えるため、より古い鳥類の観察結果などを見つけて現在の状況と比較することにより、当初の目的に近づきたい。

6. 参考文献

- (1) 里中游歩 (2021年) 美しい鳴き声が聞こえる日本の野鳥図鑑 - 保存版 出版: 宝島社
- (2) バードリサーチ植村慎吾 (2023年) 決定版見分け方と鳴き声野鳥図鑑350 出版: 株式会社 世界文化ブックス
- (3) 叶内拓哉 (2021年) 自然散策が楽しくなる見分け聞き分け野鳥図鑑 出版: 池田書店
- (4) NPO 法人 ピッキオ公式サイト
- (5) 藤巻裕蔵, 1998. 北海道中部・南東部における